



2020

南房総市の資源再発見・利活用プロジェクト～白浜のそら豆文化 万祝型紙のデジタルデータ活用に基づく職人支援



[白浜地域]

実施者

＜教員＞千葉大学大学院 工学研究科 デザイン文化計画研究室 教授 / 植田憲、助教 / 青木宏展

＜参加者＞千葉大学大学院融合理工学府 博士後期課程3年 郭庚熙、土屋篤生、宮田佳美 / 博士前期課程2年 ジンヨンジ / 博士前期課程1年 王一舟、張淑怡、陳祉佑、都宥林、王中暉、李月、涂肖 / 千葉大学工学部研究生 陳佳蕾

＜協働パートナー＞

【行政】南房総市 市民課、千葉県安房農業事務所、館山市立博物館（館山市）

【企業等】鴨川萬祝染 鈴染（鴨川市）

【市民団体等】千倉地域づくり協議会「きずな」 高家学ぼう会

【個人】戸部さかえ氏、高木豊氏（そらまめ生産者の方々）、堀江洋一氏（海辺の料理宿 政右エ門）

背景と目的

「南房総市の資源再発見・利活用プロジェクト～白浜のそら豆文化」については、2017年度よりCOC+（「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」）にて行ってきた一環「南房総市の資源再発見・利活用プロジェクト」を継続するとともに、これまでに集積した資源・知見を生活のなかで活用していくためのデザイン提案を行うことを目的とした。さらに、前年度までの小テーマとして掲げていた「南房総市の食文化の再発見と共有」を重点テーマとし、特に

①歴史、説話・伝説からみる安房地域の食についての調査と情報の活性化

②南房総市におけるソラマメの調査とデザイン提案について実施した。具体的な実施内容は以下のとおりである。

（1）白浜のそら豆についての聞き取り調査

（2020年10月29日、参加者：大学院生等名）

白浜地域のそら豆生産者の方より、①白浜の地理について、②そら豆の品種について、③栽培の工夫について、④そらまめの輸送について等の聞き取りを行った。

（2）高家神社における庖丁式の見学

（2020年11月19日、参加者：大学院生等10名）

（3）ダンボール工場視察

（2020年12月21日、参加者：大学院生2名）

（1）にて得られた知見より、白浜のそらまめのパッケージのデザイン提案を行うこととした。そのための調査として、館山市に位置する杉井工業所へ視察し、ダンボールの印刷・加工法についての調査を行った。

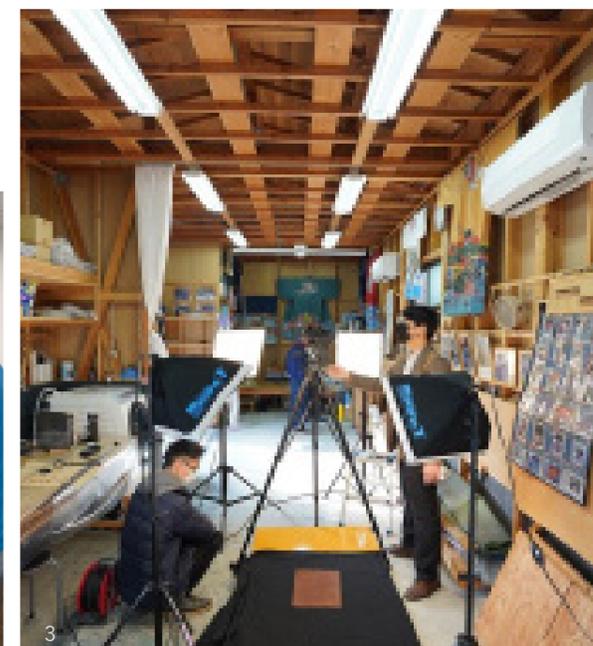
（4）パッケージの試作と評価

（2021年2月10日、参加者：大学院生3名）

①4kg用運送ダンボール、②1kg用運送ダンボール、③道の駅等販売用ビニールパッケージ（そらまめ豆知識カード付）等の試作を行い、現地の生産者の方々から評価を得た。実情に即した様々な意見を得ることができ、それらの意見を反映させたパッケージを試験的に使用していただけることとなった。来年度4月のそら豆の収穫に合わせ、現在パッケージの改良と具体化を進めている。

他方、「万祝型紙のデジタルデータ活用に基づく職人支援」では、2017年度より実施している万祝のデジタルデータ化の試みをより発展させ、デジタル造形技術による複製型紙制作に基づき、職人ならびに伝統的ものづくりを支援することを目的とし、①デジタルデータの取得、②機械彫刻による型紙の再現を行った。現在、それらの型紙を実際に鈴染の職人の方々に使用してもらい、製品の試作を行っている。今後については、引き続きどのような製品展開が可能であるか、試作を行っていく必要がある。

1 そら豆畑の見学と生産者への聞き取りの様子
2 そら豆パッケージの試作の検討
3 万祝型紙のデジタルデータの取得の様子



域学協働の工夫！

★南房総市市民課の方々より現地の生産者の方をご紹介いただいたことにより、文献調査等では得ることのできない、白浜のそら豆に関する情報を得ることができた。

★上記のため、より「白浜産」そらまめに焦点を当てたパッケージを提案することができた。

★聞き取りから評価までを現地の生産者の方々と共に行うことにより、来年度の試験的使用につながるなど、協働関係を構築することができた。

★職人の方々へお話をうかがいながら試作を繰り返したことにより、今後の連携体制をより強固なものにできた。

成果と課題

●地域貢献

そらまめの情報等、地域の魅力を発信・共有するための一手法として、パッケージを考案した。また、地域の農業現場に出向き、農業の課題を発見し、一つ解決策を提示するとともに、地域の生活者らとの連携体制が構築できた。また、万祝PJについては安房地域が誇る伝統的工芸である万祝について、デジタルデータを活用した新たな展開の可能性を提示するとともに、職人との協働により、今後、より万祝の図柄の活用に寄与できると考えられる。

●教育・研究面

実際に現地へ赴き、五感を駆使し地域生活の実態を明らかにし、文献等に記載されていないものを学ぶことができた。また、デザイン提案を行い、地域の方と一緒に検討し、その場でフィードバックをもらうことで、より実現可能性の高いデザインを仕上げることもできた。そして、現地調査で地域住民に聞き取り調査を兼ねて、得られた情報に基づいてデザイン提案を行う（情報伝達）こと

*表彰・マスコミ掲載など

・郭庚熙、土屋篤生、陳誼菲、柴田一樹、青木宏展、高木友貴、植田憲：千葉県における伝統的工芸万祝の共有化に資する取り組み - 万祝の型紙のデジタルデータを活かした地域活性化の試み -、日本デザイン学会第67回研究発表大会概要集、316-317、2020
・郭庚熙、青木宏展、植田憲：万祝の型紙に描かれた図柄からみる紺屋の地域特性 - デジタルデータに基づいた図柄の分析に向けた一考察 -、アジアデザイン文化学会発表大会概要集 No.14、246-249、2020

により、コミュニケーション能力が高められた。万祝PJにおいては、デジタルデータとデジタル造形技術の併用により、地域のものづくりをより活性化する可能性を示唆した。

今後の展開

白浜そらまめPJについては、試作した「白浜そらまめ」パッケージの改良および具体化を図り、2021年4月の収穫・販売時に試験的に使用を行う予定である。その後、購入者等の評価を経て、さらにパッケージの改良を図り、実際に使用していただける生産者の方々に募りたい。万祝PJについては、引き続きデジタルデータの取得ならびに活用を展開予定である。